

小 学 校

平成24年度

教育研究員研究報告書

音 楽

東京都教育委員会

目 次

研究構想図	1
I 研究主題設定の理由	2
II 研究の視点	2
III 研究の仮説	2
IV 研究の方法	2
1 基礎研究	2
2 研究の進め方	3
V 研究の内容	3
1 研究テーマの理解	
(1) 知覚・感受を深めるとは	
(2) 知覚・感受を深める指導・評価とは	
2 題材における知覚・感受する〔共通事項〕の具体化	3
3 児童の思考の流れに沿った指導と評価計画の作成	4
4 知覚・感受の深まりを促す発問の工夫	6
5 指導に生かす評価方法の工夫	7
6 実践事例	8
(1) 指導と評価の関連性を明確にした実践例	8
第1学年 「A表現・音楽づくり」ア 「B鑑賞」イ	
題材名 「いろいろなおとをみつけてたのしもう」	
(2) 知覚・感受を深める発問の工夫を主とした実践例	12
第4学年 「A表現・歌唱」エ 「B鑑賞」イ ウ	
題材名 「旋律が重なる面白さを感じ取って歌ったり、聴いたりしよう」	
(3) 学習の支えとなる〔共通事項〕を明確にした実践例	19
第5学年 「A表現・器楽」イ 「B鑑賞」イ	
題材名 「問いと答えの仕組みの面白さを感じて聴いたり演奏したりしよう」	
VI 研究の成果と課題	24

研究構想図

教育研究員共通研究テーマ「学習指導要領に対応した授業の在り方」

音楽科における今日的な課題

音楽科、芸術科（音楽）については、その課題を踏まえ、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成すること、音楽と生活とのかかわりに関心をもって、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度をはぐくむことなどを重視する。【音楽科改訂の趣旨（i）改善の基本方針】小学校学習指導要領解説音楽編から

教師の指導の課題

- ・教師主導、技能の習得中心の授業から児童の主体的活動を促す授業への転換
- ・聴き取ったり感じ取ったりさせたい具体的な内容の明確化
- ・児童の視点にたったねらい・活動・発問等の工夫
- ・形成的な評価の充実
- ・児童の思いや意図をもつようにする指導の充実

児童の実態

- ・表現することが好きな児童が多い
- ・音楽の時間を楽しみにしている
- ・自分からすすんで表現を工夫しようとするものが少ない
- ・思いや意図をもって音楽表現をすることが少ない
- ・音楽のよさを実感しながら学びを深めることが少ない
- ・知覚・感受したことが次の学習に生かされていない

研究主題 「知覚・感受を深める指導と評価の工夫」

研究仮説 題材において〔共通事項〕アの具体的な内容を明確にし、児童の思考の流れに沿った指導と評価を工夫することで、児童は知覚・感受を深め、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりすることができるようになるであろう。

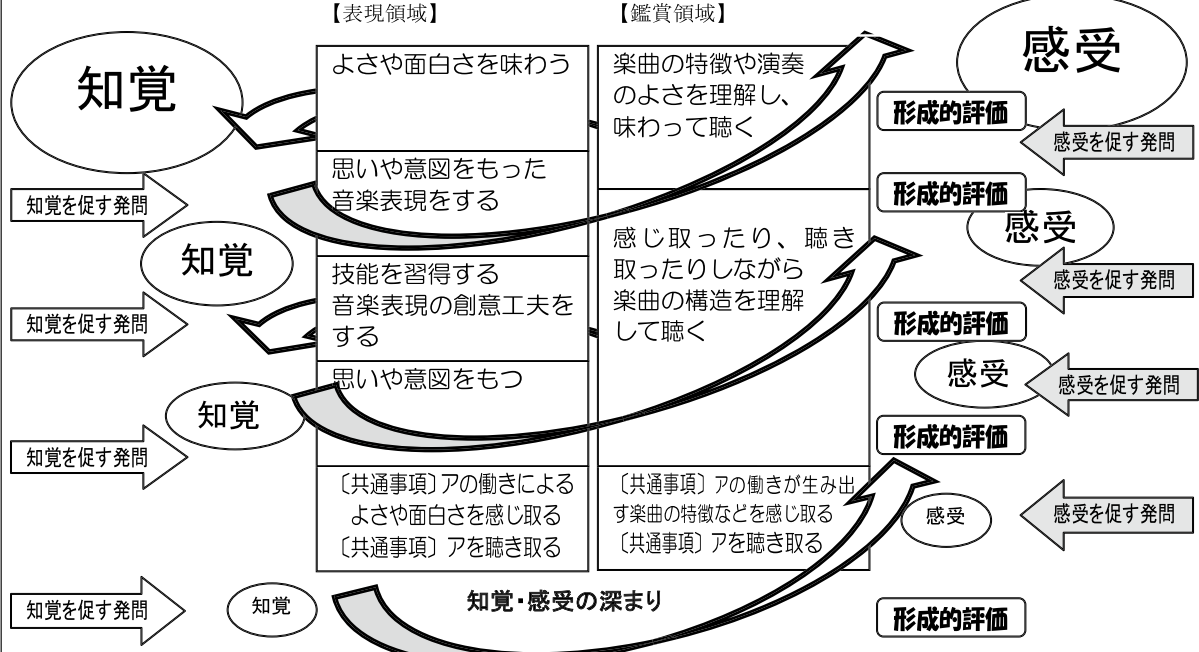
研究内容

- 【基礎研究】○文献研究… 知覚・感受の捉え方、学習指導や学習評価の在り方についての基本的な考え方について整理した。
- 【実践研究】

- (1) 題材における知覚・感受する〔共通事項〕アの具体化
- (2) 児童の意識の流れに沿った指導と評価計画の作成
- (3) 知覚・感受の深まりを促す発問の工夫
- (4) 指導に生かす評価方法の工夫

目指す児童像
音楽のよさや面白さを感じ取りながら、思いや意図をもって表現したり、音楽を味わって聴いたりすることができる児童の育成

〔児童の思考の流れの例〕



研究主題

知覚・感受を深める指導と評価の工夫

I 研究主題設定の理由

音楽科では、音楽のよさや面白さを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成することが求められている。そのためには音楽科の学力の基盤である「音楽的な感受」の力を養うことに着目し、児童が音楽を形づくっている要素を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さ、美しさを繰り返し感じ取り、それを基に、思いや意図を確かめながら、表現と鑑賞の学習を進めることが大切である。

また、各題材において扱う〔共通事項〕ア（以下〔共通事項〕とする。）の内容を明確にし、指導事項と関連させながら児童の視点でねらいや活動、発問などを工夫し、児童が思いや意図の実現を目指して音楽のよさを実感しながら学習を進めるようにすることも重要である。

これらのことから、指導事項や〔共通事項〕の内容を具体的に捉え、児童の思考の流れに沿った指導や評価の計画を立てること、児童の思いや意図を確かめながら思考を促す発問を工夫することなどを重視する授業づくりが必要であると考えた。

そこで、研究主題を「知覚・感受を深める指導と評価の工夫」と設定し、児童が思いや意図をもって表現したり聴いたりする力を育成するとともに、教師の指導上の課題解決を目指して、本研究を進めた。

II 研究の視点

研究主題に迫るため、次の四点から効果的な指導方法を目指し、検証授業等による実践研究を通して明らかにする。

- 1 題材における知覚・感受する〔共通事項〕の具体化
- 2 児童の思考の流れに沿った指導と評価計画の作成
- 3 知覚・感受の深まりを促す発問の工夫
- 4 指導に生かす評価方法の工夫

III 研究の仮説

題材において〔共通事項〕アの内容を明確にし、児童の思考の流れに沿った指導と評価を工夫することで、児童は知覚・感受を深め、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりすることができるようになるだろう。

IV 研究の方法

1 基礎研究

次の文献等を基に、知覚・感受の捉え方、題材における学習指導や学習評価の在り方の基本的な考え方や、〔共通事項〕の知覚・感受の深まりと評価の考え方について整理した。

- ・「音楽科における『思考力・判断力・表現力』と言語活動の充実」
文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 津田正之
- ・「中等教育資料『音楽教育における学力をどうとらえるか』（平成23年7月号～平成24年4月号）」
文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 大熊信彦
- ・「内外教育『音楽的な感受を基にした学習の実現を』視学官・教育課程調査官の【講義ノート】（平成24年6月12日）」
文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 津田正之
- ・平成22・23年度教育研究員研究報告書 小学校「音楽」 東京都教育委員会
- ・「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校音楽】」

国立教育政策研究所教育課程研究センター

2 研究の進め方

自己や各地区の指導の状況から課題を整理し、研究主題「知覚・感受を深める指導と評価の工夫」を設定し、研究の仮説を立てた。

6月の第1学年の授業では、リズムに着目し〔共通事項〕で示された内容をより具体的に明確にしなが、指導事項と関連付けることが重要であると捉えた。7月の第6学年の授業では、児童が「音の重なり」や「響き」を聴き取ったり感じ取ったりしているかを適切に見取ること、教材選択の適切性を確かめることの大切さに気付く、指導事項と〔共通事項〕の関連付けを図り、焦点化する必要があると考えた。

8月、都内公立小学校管理職、統括指導主事からの講話や指導・助言を踏まえ指導法の改善の方向性を見出した。また、文献研究、青梅市御岳山での宿泊研究会での研究構想図の検討により、次の四点から本研究を進めることとした。(1) 題材における知覚・感受する〔共通事項〕の具体化、(2) 児童の思考の流れに沿った指導と評価計画の作成、(3) 知覚・感受の深まりを促す発問の工夫、(4) 指導に生かす評価方法の工夫

9月以降は、3回の授業を通して仮説を検証した。

V 研究の内容

1 研究テーマの理解

本研究における用語を次のように捉えた。

(1) 知覚・感受を深めるとは

「知覚」とは、聴覚を中心とした感覚器官を通して音や音楽を判別し、対象となる〔共通事項〕を意識すること、「感受」とは音や音楽の特質や雰囲気・印象などを感じ、受け入れることである。本研究では、児童が、音楽を特徴付けている要素(音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れ、フレーズ、音の重なり、音階や調、和声の響きなど)及び「音楽の仕組み」(反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係など)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ることと捉えた。

また、「知覚・感受を深める」とは、児童の思考の流れに沿った知覚・感受を促す多様な活動を繰り返す中で、音楽を形づくっている要素の働きを意識し、音楽のよさや面白さを深く味わうようになることと捉えた。児童の知覚・感受の深まりを大切に学習を展開することによって、児童は思いや意図を確かなものとするだけでなく、思いや意図の実現状況を「よくなった」「もう少し」など実感の伴いながら、主体的・創造的に音楽表現をしたり、味わって聴いたりできるようになると考えた。

(2) 知覚・感受を深める指導と評価とは

知覚・感受を深めるとは、児童が知覚・感受したことを基に思いや意図をもち、その実現を目指して学習が進んでいくことである。そのためには、児童の思考の流れに沿った学習活動を計画することが重要である。つまり、教師が指導事項や〔共通事項〕を明確にし、その内容を具体的に捉えるとともに、児童の思考の流れに沿って、知覚・感受したことが次の学習に生かされるという学習活動の循環を授業に位置付けることが大切である。

あわせて、学習のねらいが実現された児童の具体的な姿を想定する。つまり、児童の思考の流れに沿った学習活動の展開と、学習状況を把握するための適切な評価規準を設定する。このように、評価規準を基に、児童の知覚・感受の状況を適切な評価方法で把握し、その後の指導の改善を図りながら学習を進めていくことが大切である。本研究では、こうした一連の流れを「知覚・感受を深める指導と評価」とした。

2 題材における知覚・感受する〔共通事項〕の具体化

学習指導要領の〔共通事項〕ア、「音楽を形づくっている要素のうち次の(ア)及び(イ)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。」とは音楽的な感受であり、音楽科の学習を支えるものである。児童は音楽的な感受によって音楽表現への憧れをもち、自分は、どのように工夫して音楽表現をするかという思いや意図をもち、味わって聴いたりするなど主体的・創造的に学習するようになる。尚、各学年の〔共通事項〕の指導内容は、次の表1になる。

表1 各学年の〔共通事項〕の指導内容

	(ア) 音楽を特徴づけている要素	(イ) 音楽の仕組み
低学年	音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズ	反復、問いと答え
中学年	低学年で示したものに加え、音の重なり、音階や調	低学年で示したものに加え、変化
高学年	中学年までに示したものに加え、和声の響き	中学年までに示したものに加え、音楽の縦と横の関係

本研究では、知覚と感受のサイクルを学習活動の中で繰り返し位置付け、指導と評価を適切に行うことが、知覚・感受を深めることになると考えた。

題材の指導・評価計画を作成する際、題材全体を貫いて扱う音楽を形づくっている要素は何かを明らかにしておくことが、児童の知覚・感受を深める第一歩となる。しかし、要素を明らかにしただけでは、児童の学習が進んでいく過程で、どのように〔共通事項〕の内容が深まり、児童の知覚・感受が深まるのか、また深まると児童はどのような姿になるのか、想定することが難しい。

そこで、更に、指導や評価を適切に行うために、知覚・感受が深まる段階における〔共通事項〕の内容をより明確にしておくことが必要であると考えた。

第1学年「いろいろな音をみつけよう」の実践では、学習全体を貫いて知覚・感受を深める〔共通事項〕を「音色」とした。学習指導要領解説において「音色」とは、「声や楽器などから出すことのできる様々な音の表情」と示されている。この内容を題材の指導事項と関連させ、学習状況の段階における具体的な内容を以下の表2のように整理した。これに沿った学習展開により、知覚・感受を繰り返し、〔共通事項〕の具体的な内容の深まりを期待した。

表2 〔共通事項〕の具体的な内容と学習活動

(第1学年「いろいろなおとをみつけてたのしもう」楽曲「シンコペーテッドクロック」(アンダソン作曲))

			〔共通事項〕の具体的な内容	学習活動
ア	(ア)	音色	・ウッドブロックとトライアングルから出る音の表情の違い	・楽曲「シンコペーテッドクロック」のウッドブロックとトライアングルの音色に気を付けて聴く。
			・ウッドブロックの奏法の工夫による多様な音の表情 ・トライアングルの奏法の工夫による多様な音の表情	・いろいろな鳴らし方を試し、音探しをする。 ・鳴らし方を工夫して音を出したり、友達の鳴らす音を声や体でまねしたりして音遊びをする。
			・楽器の違いや奏法の違いと楽曲とのかわり合い	・演奏者の異なる楽曲「シンコペーテッドクロック」を聴き比べ、演奏の仕方を想像したり、演奏するまねをしたりしながら楽曲を味わって聴く。

このように、〔共通事項〕の内容を明らかにし、知覚・感受している児童の具体的な姿を想定しておくことで、その状況を見取る評価規準の設定を容易にした。

3 児童の思考の流れに沿った指導と評価計画の作成

学習のねらいを実現するために、教師が、児童は何を感じ、どう思考・判断・表現するか、またそれを基にどのように音楽表現への願いをもっているか具体的に捉えることが必要である。

そこで、知覚・感受する、思いや意図をもつ、思いや意図を実現するために技能の必要性を感じる、音楽表現を工夫するなど、児童の思考の流れに沿った学習活動を計画し、学習状況を把握するための適切な評価規準の設定と位置付けを行い、全体の整合性を図った指導と評価計画を作成した(表3 参照)。

表3 児童の思考の流れに沿った指導と評価の位置付け (第1学年 音楽づくりと鑑賞の実践事例「いろいろな音をみつけよう」から)

児童の思考の流れに沿った知覚・感受の深まり		評価の位置付け			
児童の思考の流れに沿った知覚・感受の深まり		音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力	
<p>○知覚・感受を深める学習過程 ◇児童の思考の流れ</p> <p>○楽曲「シンコペーターロック」のウッドブロックとトライアングル音色に興味・関心を持ち、その特徴を感じ取る ◇〔共通事項〕を聴き取る ◇〔共通事項〕を感じ取る 「時計の動く音やペルみたいで、ウッドブロックやトライアングルの音って面白いな。」</p>	<p>〔共通事項〕の具体的な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウッドブロックとトライアングルから出すことのできる音の表情の違い (楽曲「シンコペーターロック」) 	<p>音楽への関心・意欲・態度</p> <p>指を動かしたり演奏するまねをしたりしながら、ウッドブロックとトライアングルの音色の特徴を聴き取る学習に進んで取り組んでいる。【関①—鑑賞】</p>		<p>ウッドブロックとトライアングルの音色を聴きとり、それらの特徴が生み出すよさや面白さを感じ取って言葉や体の動きで表わしながら聴いている。(楽曲「シンコペーターロック」) 【鑑①①】</p>	
<p>○奏法の工夫によって出すことのできるウッドブロックとトライアングルの多様な音色に興味・関心を持ち、その特徴を生かした音遊びを楽しむ。(音探し・音遊び) ◇思いや意図をもつ。 「ウッドブロックやトライアングルの鳴らし方を変えるといういろいろな音が出て面白よ。どの音がいか探そう。」 ◇技能の必要性を感じる、創意・工夫をする、技能を習得する、思いや意図をもった音楽表現をする。 「楽器の音の出し方を工夫しておもしろい音を見付けながら、音遊びをしよう。」</p>	<p>・ウッドブロックの奏法の工夫による多様な音の表情 ・トライアングルの奏法の工夫による多様な音の表情 (音探し・音遊び)</p>	<p>ウッドブロックとトライアングルの奏法の違いによる音色の特徴を聴き取り、その面白さやよさを感じ取っている。【創①—音楽づくり】</p>			
<p>○再び演奏者の異なる楽曲「シンコペーターロック」を聴き比べて鑑賞し、音色の特徴による楽曲の面白さを味わい楽しむ。(鑑賞) ◇よさや面白さを味わう。 「同じ曲なのに楽器の種類や鳴らし方によって音色が変わると、音楽全体の感じが変わるな。面白いな。」</p>	<p>・楽曲とウッドブロックやトライアングルの多様な音の表情や奏法とのかわり合いによるよさや面白さ</p>	<p>ウッドブロックとトライアングルの奏法の違いによる音色の特徴を聴き取り、その面白さやよさを感じ取りながら、音の出し方を工夫し、どのように音をだすか思いをもっている。【創②—音楽づくり】</p>	<p>ウッドブロックとトライアングルの奏法による音色の特徴に気付き、それを生かして音遊びをしている。【技①—音楽づくり】</p>	<p>ウッドブロックとトライアングルの音色の違いや奏法による音色の違いを聴き取り、楽曲「シンコペーターロック」と音色のかわり合いによる面白さを感じ取り、体の動きや言葉で表現している。【鑑②②】</p>	

児童の知覚・感受の状況を把握するため、「音楽表現の創意工夫」「鑑賞の能力」の評価規準を設定する際、題材の学習活動の展開によって、次の点に留意して設定した。

「音楽表現の創意工夫」では、①音楽を形づくっている要素（題材で扱う〔共通事項〕の具体的な内容）の知覚・感受している状況を見る評価規準、②知覚・感受しながら音楽表現を工夫し、どのように表すのか思いや意図をもっている状況を見る評価規準の設定

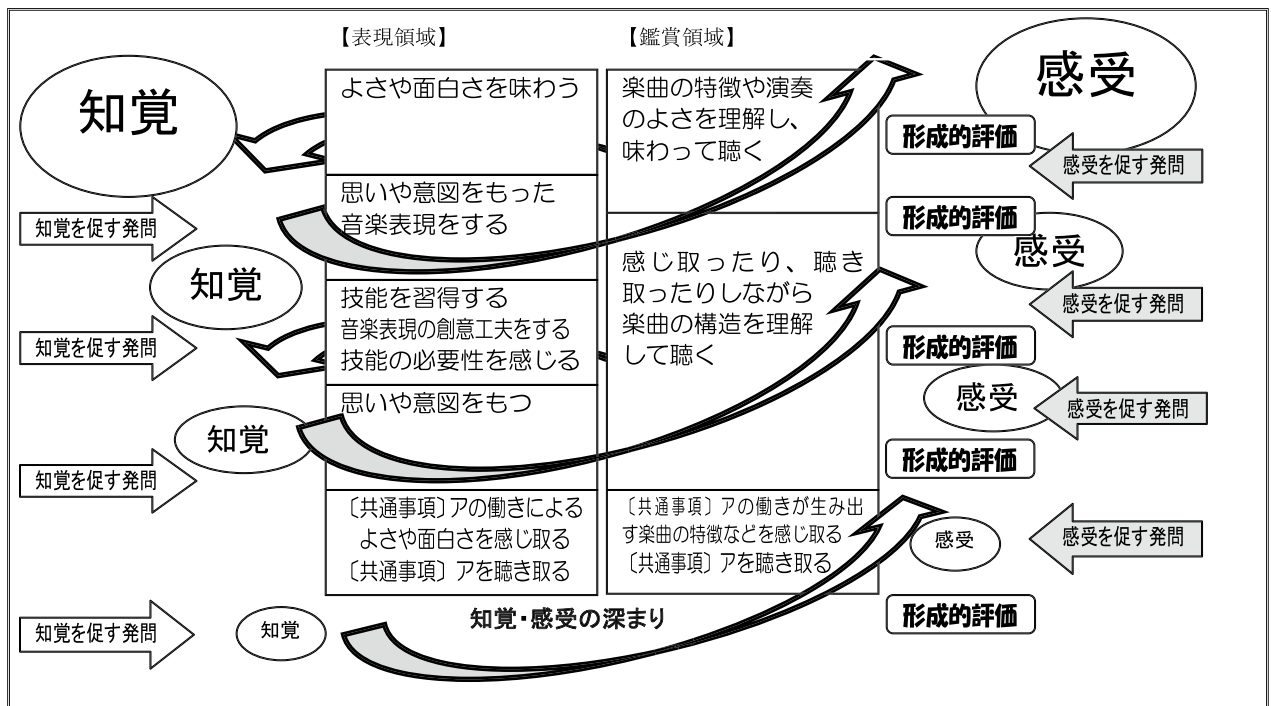
「鑑賞の能力」では、①音楽を形づくっている要素、題材で扱う〔共通事項〕の知覚・感受している状況を見る評価規準、②知覚・感受しながら、楽曲の特徴や演奏のよさなどを考え、味わって聴いている状況を見る評価規準、③楽曲を全体にわたって感じ取る状況を見る評価規準を設定した。

4 知覚・感受の深まりを促す発問の工夫

児童の思考の流れに沿った知覚・感受を深める指導と評価計画を考えるに当たり、図1のように知覚・感受の深まりには段階があると捉え、指導と評価計画を作成した。

また、児童の思考に沿って現在の学習段階を捉え、児童に何を聴き取らせ、感じ取らせたいのか、何を考えさせたいのかを明確にし、意図的に発問した。

図1 知覚・感受を深める段階例

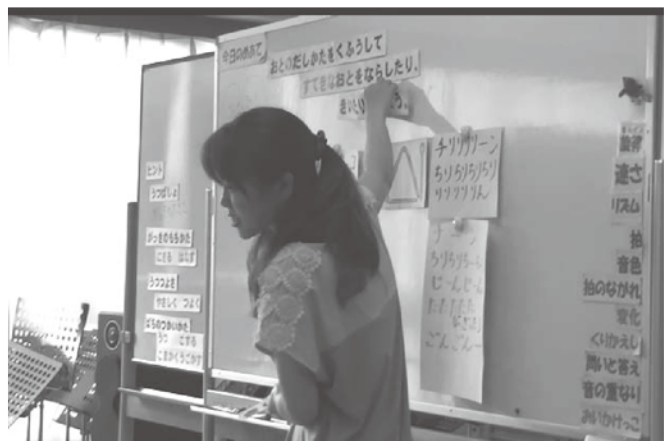


表現領域においては、

- ①〔共通事項〕を知覚させる発問
- ②〔共通事項〕の働きが生み出すよさや面白さを感じさせる発問
- ③思いや意図をもたせる発問

鑑賞領域においては、

- ①〔共通事項〕を知覚させる発問
- ②〔共通事項〕の働きが生み出す楽曲のよさや面白さを感じさせる発問
- ③楽曲のよさに気付かせる発問



検証授業において、知覚していると思われる児童には更に深めるための感受を促す発問、感受している児童には知覚している要素を言葉などで表現させながら明確に認識できるような発問、知覚・感受したことから思いや意図をもたせ音楽表現につなげる発問など、児童の思考の流れによって発問を変えられるように計画した。

児童の思考が止まることなく流れるようにするために、それぞれの段階を個に応じた見極め上記の①②③の発問の工夫をする。

トライアングルの上の方をやさしくたたくと「チーン」ってなるよ。でも強くたたくと、「ジーン」ってなるよ。

見つけた音を言葉で教えてくださいね。楽器の鳴らし方も教えてください。



あっ、たたく強さがちがうと音が変わるのかな。

5 指導に生かす評価方法の工夫

児童が、思いや意図を実現できるようにするために、児童の学習状況を適切に評価し、その状況に応じて教師は指導を見直すことが必要である。

評価に当たっては、表3に基づき、学習過程を明確にした上で、児童の知覚・感受の状況や毎時間のねらいの実現状況を、いつ、どのように評価するのか、ハンドサイン、表情観察、発言内容、行動観察、振り返りカードやワークシート、演奏聴取などの方法を組み合わせて評価する。教師は、設定した評価規準に基づいて、児童一人一人の学習状況を把握し、つまづきが見られる児童への指導に役立てる。

6 実践事例

(1) 指導と評価の関連性を明確にした実践例 (第1学年)

① 題材名 「いろいろなおとをみつけてたのしもう」 (4時間扱い)

② 題材の目標

楽曲を聴いて身近な打楽器の音色に興味・関心をもち、その特徴や面白さを生かして音遊びをし、打楽器の音色が音楽を形づくっている事を感じ取りながら音楽を聴いて楽しむ。

教材名 「シンコペーテッド クロック」(アンダソン作曲)

③ 学習指導要領との関連

【A表現:(3) 音楽づくり】

ア 声や身の回りの音の面白さに気付いて音遊びすること。

【B鑑賞:(1)】

イ 音楽を形づくっている要素のかかり合いを感じ取って聴くこと。

〔共通事項〕

ア (7) 音色

			〔共通事項〕の具体的な内容	学習活動
ア	(7)	音色	・ウッドブロックとトライアングルから出る音の表情の違い	・楽曲「シンコペーテッドクロック」をウッドブロックとトライアングルの音色に気を付けて聴く。
			・ウッドブロックの奏法の工夫による多様な音の表情(音探し・音遊び) ・トライアングルの奏法の工夫による多様な音の表情(音探し・音遊び)	・いろいろな鳴らし方を試し、表情の異なる音探しをする。 ・鳴らし方を工夫して音を出したり、友達の鳴らす音を声や体でまねしたりして音遊びをする。
			・楽器の違いや奏法の違いと楽曲とのかかり合い	・演奏者の異なる楽曲「シンコペーテッドクロック」を聴き比べ、演奏の仕方を想像したり、演奏するまねをしたりしながら楽曲を味わって聴く。

④ 題材の評価規準

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
ウッドブロックとトライアングルの音色や奏法によって生み出される特徴的な音色に興味・関心をもち、進んで音や音楽を聴いたり、音遊びをしたりしている。 【関一①鑑賞 ②音楽づくり】	ウッドブロックとトライアングルの奏法の違いによる音色の特徴を聴き取り、その面白さやよさを感じ取りながら、音の出し方を工夫し、どのように音をだすか思いをもっている。 【創一①音楽づくり ②音楽づくり】	ウッドブロックとトライアングルの奏法による音色の特徴に気付き、それを生かして音を鳴らしたり、聴き取った音色を声や体を使って表現したりして、音遊びをしている。 【技一①音楽づくり】	ウッドブロックとトライアングルの音色を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素のかかり合いを感じ取り味わって聴いている。 【鑑一①②】

⑤ 指導観

(1) 題材観

本題材では、音楽を形づくっている要素、特に「音色」に焦点をあて、楽曲を聴いたり、身近な打楽器を用いて音遊びをしたりしながら様々な音に対する関心を高め、奏法による音色の違いや特徴、その面白さに気付くようにしていく。また、楽しみながら音に対する感覚を養い、感じ取ったことを言葉で表現することで、児童が打楽器の違いや奏法による音色の

特徴について知覚・感受したことを明確にしていく。

さらに異なる演奏者による演奏を聴き比べて鑑賞し、音楽と特徴づける音色のかかわり合いから生み出されるよさや面白さを味わいながら楽曲を聴くことで、音色に対する関心や知覚・感受を深めていく。これらの学習過程で、この様に表現と鑑賞の学習活動を組み合わせ、知覚・感受を繰り返すことで、音色の働きによる楽曲のよさや面白さを味わうようにする。

(2) 教材観

ア 表現教材

(ア) 音探し・音遊び

音遊びでは、音を注意深く聴いて声で表したり体を動かしたりし、様々な音色の特徴を感じ取れるようにする。音探しでは、鳴らし方を工夫しながら好きな音を探し様々な音色の違いや特徴を感じ取るようにする。また見付けた音をつなげたり、一分間ゲームなどをしたりして、偶然にできる音楽を楽しみ、音楽づくりへとつながるようにしていく。



トライアングルをにぎってたたくと、小さく「チチチ」って音がする。短い音はすぐ消えちゃうな・・・。



イ 鑑賞教材

(ア) 打楽器の音色の違いを知覚・感受する教材




「シンコペーテッド クロック」(アンダソン作曲)

(CD①・・・フレデリック・フェネル指揮/イーストマン=ロチェスター・ポップ・オーケストラ)

(CD②・・・レナード・スラットキン指揮/セントルイス交響楽団)

⑥ 児童の思考の流れに沿った知覚・感受の深まりと評価の位置付け (P. 5 表3参照)

⑦ 題材の指導計画と評価計画（全4時間扱い）

次	時	評価の位置付け			
		音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の 創意工夫	音楽表現の 技能	鑑賞の能力
第一 次	◆ 楽曲「シンコペーターブロック」を聴いてウッドブロックとトライアングルの音色の特徴を感じ取る。				
	<p>○「シンコペーターブロック」の打楽器の音色の特徴を感じ取って聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数枚の時計の絵を見て、どんな音が聴こえてくるか想像したりして、これから聴く音楽に関心をもつ。 ・聴こえてくる音色に気を付けながら楽曲全体を聴く。 ・聴こえてきた音を発表する。再び聴いて確認する。 ・教師が提示した打楽器を基に、聴き取った音はどの楽器の音色か見付けながら聴く。 ・発表を基に、見付けた音色の打楽器（ウッドブロック）の音に合わせて指を動かしながら聴く。 ・トライアングルの音が鳴る部分で音に合わせて、手を挙げる。 ・ウッドブロックやトライアングルが表している時計はどれか想像し発表する。 ・トライアングルの奏法を確認し、演奏のまねをしながら聴く。 ・ウッドブロックチームとトライアングルチームに分かれて演奏するまねをしながら聴く。 ・時計の音楽を聴いて面白かったことを発表し合う。 ・振り返りをし、ウッドブロックとトライアングルの音色について知覚・感受できたことを確認する。 	<p>◇指を動かしたり演奏するまねをしたりしながら、ウッドブロックとトライアングルの音色の特徴を聴き取る学習に進んで取り組んでいる。</p> <p>【関一①鑑賞】 (行動観察)</p>	<p>(振り回りカードより) 「見付けたのはどんな音ですか。」「聴こえてきた音を書きましょう。」 ←「カコカコ」「カッコカッコ」</p>  <p>「ジリリリリン」 「リリリリ」 「ちりりりり」 →</p>	<p>◇ウッドブロックとトライアングルの音色を聴きとると、それらの特徴が生み出すよさや面白さを感じ取って言葉や体の動きで表わしながら聴いている。</p> <p>【鑑一①】 (行動観察)</p>	
第二 次	◆ ウッドブロックとトライアングルの鳴らし方を工夫し、奏法の違いによる音色の面白さに気付いて音遊びをする。				
	<p>○楽器の音をよく聴いたり、音の出し方を工夫したりして、さまざまな音色の特徴やそのよさに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箱の中から聴こえる音あてゲームをし、一つの楽器からいろいろな音が出せることを知る。 <p>T:「箱の中には何種類の楽器が入っていますか。」「どんな鳴らし方をしているか想像してみよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽器の持ち方、鳴らす場所や鳴らし方などを試しながら、自分の気に入った音を見付け、演奏するグループと聴くグループに分かれ、気に入った音やその理由を紹介し合ったり、演奏を聴いていいなと思った友達を紹介し合ったりする。 ・学習の振り返りをし、いろいろな鳴らし方を試しながら、気に入った音を見付けられたか、見付けた音をカードに記入する。 	<p>◇友達の出す音から、ウッドブロックとトライアングルの奏法の違いによる音色の特徴を聴き取り、その面白さやよさを感じ取っている。【創一①】 (発言内容・演奏聴取)</p>	<p>(振り回りカードより) ←「コロコロコロ」「カッココーン」「とととと」「カタコトカタコト」</p>  <p>「ティンティン」「にぎるととたた」 「ドレミみたいになんちんちんチーン」「チリチリチリ」→</p> 		

	<p>○音の出し方を工夫し、音遊びを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな音の出し方を試し、鳴らす音を決める。 ・円になり、一人ずつ順番に音を鳴らしてリレーをする。 ・二人組になって友達が進む過程で、自分が発する音だけでなく、友達や教師の鳴らす音にも注意深く聴くようになった。音の出し方や、言葉での表現にもこだわりが見られるようになり、その後の題材においても音色を感じ取る姿が見られた。感受した内容について、活発に発言したりして音色への知覚・感受が深まる姿が見られた。行動観察や演奏聴取、発言内容での変化はあまり変化が見られない児童もいる。カードに書かれた内容は、こうしたことを充分に考慮し、その後の指導の参考として扱うことが望ましい。また振り返りカードの形式は発達段階に応じよく吟味する必要がある。 	<p>◇ウツドブドラの奏法の違いによる音色の特徴を聞き取り、その面白さやよさを感じ取りながら、音の出し方を工夫し、どのようにならぬように音を出さずか。【創一①音楽づくり】(行動観察・演奏聴取)</p>	<p>◇ウツドブドラの奏法による音色の特徴を聞き取り、その面白さやよさを感じ取りながら、音の出し方を工夫し、どのようにならぬように音を出さずか。【創一①音楽づくり】(行動観察・演奏聴取)</p>
--	--	--	---

<p>◆打楽器の音色の特徴や面白さを味わいながら音楽を聴いて楽しむ。</p>	<p>○演奏者の違う楽曲を聴き比べ、打楽器の音色の面白さを味わって聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1時で学習した内容を振り返りながら、第1時で聴いた楽曲を聴き、指を動かしたり演奏するまねをしたりしながら「シンペーターロック」の演奏を聴く。(CD①) <p>T:「今度は違う人たちが演奏しているシンペーターロックを聴きます。はじめの演奏に比べて、時計の音は同じかな。違うかな。時計の音に注意して聴いてみましょう。」</p> <p>・時計の動く音(ウツドブドラの音色)やベルの音に着目しながら、違う楽器の演奏(CD②)を聴き比べ、それぞれの時計の音がどんなふうになったか、どんな演奏の仕方をしているか想像して発表する。</p> <p>T:「それぞれの演奏に出てくる時計はどんな時計なのでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aの部分だけを聴き比べたり、Bの部分だけを聴き比べ、感じ取ったり想像したりしたことを発表し、音色によって音楽の感じ方が変わることにも気付く。 ・曲に合わせて自分が想像する演奏のしかたで演奏するまねをしたり、時計の針の動きを表したりしながら二曲を聴く。 <p>T:「今度はみんなに演奏家になってもらいます。聴こえてくる音をよく聴いて、先生に分かるように演奏するまねをしてください。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が気に入った演奏を発表し合う。 ・振り返りをし、演奏する様子をまねをしながら聴くことができたら、気に入った演奏とその時計の音はどんな音だったかカードに書く。 	<p>◇ウツドブドラの奏法の違いによる音色の特徴を聞き取り、その面白さやよさを感じ取りながら、音の出し方を工夫し、どのようにならぬように音を出さずか。【創一①音楽づくり】(行動観察・演奏聴取)</p>	<p>◇ウツドブドラの奏法による音色の特徴を聞き取り、その面白さやよさを感じ取りながら、音の出し方を工夫し、どのようにならぬように音を出さずか。【創一①音楽づくり】(行動観察・演奏聴取)</p>
--	---	--	---

児童の変容と今後の課題
 聴き取った音を言葉で表現し、音探し、音遊びと活動が進む過程で、自分が発する音だけでなく、友達や教師の鳴らす音にも注意深く聴くようになった。音の出し方や、言葉での表現にもこだわりが見られるようになり、その後の題材においても音色を感じ取る姿が見られた。感受した内容について、活発に発言したりして音色への知覚・感受が深まる姿が見られた。行動観察や演奏聴取、発言内容での変化はあまり変化が見られない児童もいる。カードに書かれた内容は、こうしたことを充分に考慮し、その後の指導の参考として扱うことが望ましい。また振り返りカードの形式は発達段階に応じよく吟味する必要がある。

(児童の発言や振り返りカードの内容から)

	<p>かっこかっこ、かんこん 強くたいたっている。</p>	<p>元気な時計 にぎやかなめざまし時計</p>
<p>CD①</p>	<p>ジリリリリ 大きなトライアングル</p>	<p>リリリリ、ちゃりりん 小さい楽器、弱く細かく打つ</p>
<p>CD②</p>	<p>コッコ やさしくカッコ やさしくうつ、弱くうつ</p>	<p>赤ちゃんの時計、眠い時計 小さな時計</p>

【鑑一②】(発言内容・行動観察)
 ◇ウツドブドラの奏法の違いによる音色の特徴を聞き取り、その面白さやよさを感じ取りながら、音の出し方を工夫し、どのようにならぬように音を出さずか。【鑑一②】(発言内容・行動観察)

(2) 知覚・感受を深める発問の工夫を主とした実践例 (第4学年)

- ① 題材名 「旋律が重なる面白さを感じ取って歌ったり、聴いたりしよう。」(6時間扱い)
- ② 題材の目標 歌唱教材「パレード ホッホー」や楽曲「ファランドール」の旋律が重なり合う面白さを感じ取り、声を合わせて歌ったり味わって聴いたりできるようにする。

教材名 「パレード ホッホー」 (高木あきこ作詞 平良穀州作曲)
 「アルルの女」第2組曲から「ファランドール」(ビゼー作曲)

③ 学習指導要領との関連

【A表現：(1)】エ 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。

【B鑑賞：(1)】イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気をつけて聴くこと。

ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。

[共通事項] (7) 旋律 音の重なり

			[共通事項] の具体的な内容	学習活動
ア	(7)	旋律	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱教材「パレード ホッホー」の二つの異なる旋律の特徴の違い (ア)リズミカルな感じ、イ)ゆったり流れる感じ) 	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱教材「パレード ホッホー」の(ア)と(イ)の旋律の違いを感じ取って聴く。 (ア)と(イ)の旋律の感じや言葉の面白さを生かして特徴の違いを生かした歌い方をする。
			<ul style="list-style-type: none"> 歌唱教材「パレード ホッホー」の二つの異なる旋律が重なる面白さや楽しさ 歌唱教材「パレード ホッホー」の二つの異なる旋律を重ねて演奏する面白さや楽しさ 	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱教材「パレード ホッホー」の二つの旋律が重なる面白さを感じ取る。 言葉の面白さを生かして歌う。 感じ取ったよさや面白さを生かすには、どのように歌いたいか考え、思いや願いをもつ。 二つの旋律が重なる楽しさを求めて、喜びを感じて歌う
			<ul style="list-style-type: none"> 楽曲「ファランドール」の二つの旋律の重なり合いや掛け合いなど楽曲の仕組みから生まれるよさや面白さ 	<ul style="list-style-type: none"> 楽曲「ファランドール」の二つの旋律の掛け合いや同時進行する面白さ、重なったときの面白さなど楽曲を味わって聴く。

④ 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
二つの旋律の重なり合いに関心をもち、進んで聴いたり、表現したりする学習に意欲的に取り組もうとしている。 【関一①歌唱②鑑賞】	二つの旋律の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを感じ取りながら表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや意図をもっている。【創一①②③歌唱】	友達の歌声や旋律の重なりを感じながら、自分の声を合わせて歌っている。【技一①歌唱】	二つの旋律の重なり合いや掛け合いの面白さを味わって聴いている。 【鑑一①鑑賞】

⑤ 指導観

(1) 題材観

本題材ではア(ア) 旋律を通して「歌唱」と「鑑賞」の関連を図るようにした。歌唱では、異なる旋律が重なり合う面白さを感じ取り、「旋律の重なり」の面白さを感じ取らせるために表現を工夫させる。鑑賞では、二つの旋律が交互に現れたり重なったりすることの面白さや楽曲の構造を知覚・感受し楽曲全体を鑑賞する。

歌唱と鑑賞の活動を通して「旋律の重なり」の面白さを繰り返し知覚・感受することで、児童自身が学習の深まりを感じられる学習が展開できるようにする。

(2) 教材観

ア 歌唱教材

「パレード ホッホー」 (高木あきこ作詞／平良毅州作曲)

軽快でリズムカルな旋律Aと、ゆったりと流れる旋律Bといった対照的な二つの旋律で構成されている。また、**ア**は擬音語を加えた楽しい歌詞で、**イ**は希望に満ちた明るい歌詞である。

それぞれの旋律の特徴を感じ取って二つの旋律を重ねて歌うことで、様々な表現の工夫をすることができる。

アと**イ**の旋律を重ねる活動では、相手に負けないように自分のパートを大きな声で歌うのではなく、柔らかな声の出し方で歌う方が気持ちよく合わせられることに気付かせ、二つの旋律が重なることで生まれる面白さを実感させ、表現を工夫させたい。互いの声を聴き合いながら気持ちを合わせ、歌声を合わせられるよう様々な工夫ができるよう指導を進めていく。

イ 鑑賞教材

「アルルの女」第2組曲から「ファランドール」(ビゼー作曲)

(CD・・・ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮／ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団)

「ファランドール」は主たる旋律が二つ出てくる。一つはプロヴァンス民謡〈3人の王の行列〉に基づく旋律(以下「旋律A」とする。)であり、もう一つはプロヴァンス地方の踊りの音楽ファランドールの旋律(以下「旋律B」とする。)である。

はじめに旋律Aが全合奏で現れ、次にこの旋律がカノンにより奏される。次に旋律Bを奏し始め、これが熱狂を加えていくうちに旋律Aと交互に奏せられ、終わりのクライマックスではこの二つの旋律が同時に組み合わせられて奏せられ、壮快な終結部に入る。(参考文献「最新名曲解全集第5巻 管弦楽曲Ⅱ」音楽之友社、1980。)

特徴のはっきりしている二つの旋律なので聴き取りやすい。また、二つの旋律が交互に現れたり、重なったりする面白さに気付くことで、楽曲の構造に気をつけて聴くことができる。

歌唱で、二つの旋律を重ねる面白さを経験したことを生かし、この楽曲では旋律の重なりで歌唱曲との共通点を見付け、旋律の重なりから生まれる面白さや広がりを感じ取れるよう進めていく。

⑥ 児童の思考の流れに沿った指導と評価の位置付け

児童の思考に沿った知覚・感受の深まり		評価の位置付け			
児童の思考に沿った知覚・感受の深まり	[共通事項]の具体的な内容	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
<p>○知覚・感受を深める学習過程</p> <p>◇児童の思考の流れ</p> <p>○「パレードホッパー」の二つの旋律の重なり合いに関心をもち、それぞれの特徴を感じ取る。</p> <p>◇ [共通事項] を聴き取る</p> <p>◇ [共通事項] を感じ取る</p> <p>「ア」と「イ」の旋律は感じが違うな。全く違う旋律なのに重ねることができるんだ。」</p>	<p>・「パレードホッパー」の二つの異なる旋律の特徴の違い(ア)リズムミカルな感じとイゆったりとした感じ)</p>	<p>二つの旋律の特徴や重なり合いに関心をもち、意欲的に聴いている。【関一①歌唱】(行動観察、ワークシート)</p>	<p>二つの旋律のそれぞれの特徴を感じ取り、旋律の重なりによる面白さを感じ取っている。【創一①歌唱】(発言内容、ワークシート)</p>		
<p>○二つの旋律の特徴を生かした歌い方を工夫して歌う。</p> <p>◇思いや意図をもつ</p> <p>「ア」の楽しい気分を出すには、はずんで歌った方がいいかな。イのどかな雰囲気を出すには景色を想像して響く声で歌った方がいいかな。」</p>	<p>・「パレードホッパー」の二つの異なる旋律の重なり</p>		<p>主な旋律や副次的な旋律、二つの旋律の重なりを聴き取り、旋律の違いを生かした歌い方を工夫し、思いや意図をもっている。【創一②歌唱】(発言内容・行動観察)</p>		
<p>○二つの旋律の重なり合いの面白さを感じ取りながら、表現を工夫し歌う。</p> <p>◇技能の必要性を感じる、創意・工</p>	<p>・「パレードホッパー」の二つの異なる旋律が重なる面白さや楽しさ</p>		<p>二つの旋律の重なりを聴き取り、声を合わせて歌う表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや思いをもっている。【創一③歌唱】(発言内容・演奏聴取)</p>		

4	<p>夫をする、技能を習得する、思いや意図をもった音楽表現をする</p> <p>◇よさや面白さを味わう</p> <p>「重ねてみると、アの出だしが難しいな。イが小さいからお互いによく聴きながら歌ってみよう。演奏の録音を聴いたら怒鳴っていたからもっと柔らかい声で歌ってみよう。」</p>	<p style="text-align: center;">↓</p>	<p>友達の声や副次的な旋律を聴きながら、自分の声を合わせ歌う学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>【関一②歌唱】 (行動観察・発言内容)</p>		<p>友達の声や旋律の重なりを感じながら、自分の声を合わせて歌っている。</p> <p>【技一①歌唱】(演奏聴取、行動観察)</p>	
5	<p>○楽曲「フアランドール」を聴いて、二つの旋律の重なり合いや掛け合いの面白さを感じ取って聴く。 (鑑賞)</p> <p>◇〔共通事項〕を感じ取る</p> <p>◇〔共通事項〕を感じ取る</p> <p>◇よさや面白さを味わう</p> <p>「二つの違う旋律が順番に出てきてその後、二つの旋律が重なる」と盛り上がってにぎやかになるね。」</p>	<p>・楽曲「フアランドール」の二つの旋律の重なり合いや掛け合いなど楽曲の仕組みから生まれるよさや面白さ</p>	<p>二つの旋律の特徴に関心を持ち、意欲的に聴いている。</p> <p>【関一②鑑賞】 (行動観察・発言内容・ワークシート)</p>			
6						<p>二つの旋律の重なり合いや掛け合いの面白さを感じ取って聴いている。【鑑一①】 (行動観察・ワークシート)</p>

⑦ 題材の指導計画と評価計画（全6時間扱い）

次 時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	評価の位置付け		
		音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能 鑑賞の能力
第 二 次	◆二つの異なった旋律の特徴を感じ取る。 ○「パレードホッパー」の二つの異なった旋律の特徴を感じ取る。 ・旋律が変わるところで挙手をする。 T：今からある曲を流します。曲の感じがらっと変わるところで手をあげましよう。 ・二つの特徴の異なった旋律があることを確認する。 ・拡大楽譜を見ながらア・イの旋律の特徴の違いに気を付けて聴く。 ・ア・イの旋律の違いをワークシートに記入し発表する。 ・範唱CDを通して聴いて、アとイの二つの旋律が重なりとどんな感じがしたかワークシートに記入し発表する。 T：二つの旋律が一緒に書いてみましょう。 ・アとイのリズムと音程に気を付けて歌う。	二つの旋律が重なりとどんな感じになりますか。(児童のワークシートから) ・重なったほうが、倍楽しい。 ・はなやかな感じになる。 ・はじける感じとどかな感じが重なりと面白い。 ・よりきれいな音楽になる。 ・盛り上がる。		
	◆二つの旋律の重なりによる面白さを感じ取りながら、表現を工夫して歌う。 ○二つの旋律の特徴を生かして歌う。 ・前時を振り返りながら、アとイの二つの旋律の特徴の違いを確認してそれぞれの旋律を歌う。 T：アの音楽の気分を出すにはどんなことに気を付けて歌えばいいですか。 ・アの旋律の特徴を生かしてパレードの楽しい気分が出るように歌い方を工夫する。 T：イの音楽の気分を出すにはどんなことに気を付けて歌えばいいですか。 ・イの旋律の特徴をつかみ、なめらかに歌えるよう歌い方を工夫する。	二つの旋律の特徴や重なり合いに関心をもち、意欲的に聴いている。 【創一①歌唱】(発言内容、ワークシート) 観察、ワークシート)	二つの旋律の特徴を感じ取り、重なる面白さを感じ取っている。 【創一①歌唱】(発言内容、ワークシート)	旋律の違いを生かした歌い方を工夫し、思いや意図をもっている。 【創一②歌唱】(発言内容・行動観察)

	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大楽譜に注目し一番響かせるところを考え「イ」の符点二分音符を伸びのある声で歌えるように階名でも歌う。 ・それぞれの旋律と特徴を生かして歌えているか、二つに分かれてお互いに聴き合い、アドバイスし合う。 ・アドバイスを受けて、何回か歌い確認する。 ・全員で通して歌う。 			
◆二つの旋律の重なりを面白さを感じ取りながら表現を工夫して歌う。				
3	<ul style="list-style-type: none"> ○二つの旋律を重ねて歌う。 ・二つの旋律が重なりとどんな感じがしたか振り返り確認する。 ・「ア」と「イ」の二つの旋律の特徴を生かしてそれぞれの旋律を歌う。 ・児童を二つに分け、重ねて歌う。両パート歌えるようにする。 ○二つの旋律が重なり合う響きを感じ取り表現の仕方を工夫する。 ・演奏を録音し二つの旋律の重なりがどうなっているか聴き取る。 「T:「どんなことに気を付ければ、二つの音楽が上手く重なると思いますか。」」 ・歌い方に気を付けて何回か歌う。 ・「A」「B」チームに分かれて歌い、それぞれの旋律が同じ音量で歌えているか聴き合い、表現の工夫やバランスについて聴き合う。 ・全員で歌い録音し演奏を振り返る。(バランス・声の出し方・演奏の変容の気付き) 	二つの旋律の重なりを聴き取り、声を合わせて歌う表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもっている。 【創一③歌唱】 (発言内容・演奏聴取)	<p>実際に歌った児童の感想から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音がワーツとひびいたときが、気持ちよかった。 ・やわらかい曲だから地声はだめ。 ・もっとお互いの声を聞いた方がよい。 ・伸ばしているとき、パラタタと歌っているところが面白い。 ・(音が)重なった方が、より楽しくリズムをとって歌えた。 ・カラフルな感じになった。 	
4	<ul style="list-style-type: none"> ○二つのふしが重なり合う響きを感じ取って、表現の仕方をグループで工夫する。 ・前時を振り返りながら二つの旋律に分かれて歌う。 ・6人グループに分かれて練習する。 ・中間発表をし、アドバイスし合う。 ・アドバイスをもとに練習する。 ・グループごとに発表する。 ・全員で歌う。 	友達の歌声や副次的な旋律を聴きながら、自分の声を合わせ歌う学習に進んで取り組もうとしている。 【関一②歌唱】(行動観察・発言内容)	友達の歌声や旋律の重なりを感じながら、自分の声を合わせて歌っている。 【技一①歌唱】 (演奏聴取、行動観察)	

	◆楽曲を聴いて、二つの旋律の重なり合いや掛け合いの面白さを感じ取って聴く。			
5	<p>○旋律の特徴に気を付けて聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「王の行進」と「馬のダンス」の旋律に気を付けて二つの旋律が重なる前までの部分を聴き、曲の雰囲気を感じ取る。 ・二つの旋律を確認し、曲名と旋律の名前を知る。 ・「王の行進」と「馬のダンス」の合唱CDをロザさみながら聴く。 ・絵譜を見ながら、二つのパートを歌う。 ・冒頭部を指揮しながら聴き、二つの旋律の特徴で気付いたことや感じたことをワークシートに記入し発表する。 	二つの旋律の特徴に 関心をもち、意欲的に 聴いている。 【関—②鑑賞】 (行動観察・発言内容 ワークシート)		
6	<p>○旋律の重なり合いを感じ取って聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時を振り返り、旋律の特徴を確認する。 ・二つのグループに分かれ互いに真ん中に向き合い、自分が担当する旋律が聴こえたら立つ。 ・二つの旋律がどのように表れたか発表する。 ・旋律を感じ取ることが難しい児童にも理解しやすいように、発言にそって「馬」と書いたカードを掲示し構成が視覚でも分かるようにする。 <p>○「パレードホッホー」の旋律の重なる面白さを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの旋律の重なりを楽しみながら「パレードホッホー」を歌う。 		二つの旋律の重なり 合いや掛け合い の面白さを感じ 取って聴いてい る。【鑑—①鑑賞】 (行動観察・ワー クシート)	

第三次

児童の変容と今後の課題

- ・ 互いの演奏を聴き合ったり、アドバイスをもとに部分的に歌ったりして、常に音で確かめ合いながら演奏の変化を皆で確認するようになった。
- ・ 二つの旋律がしっかりと歌えるようになってから、最後の方では互いの旋律を聴き合いながら旋律の重なる楽しさを感じて歌えるようになった。
- ・ 発問を考えるときには、何を感じ取らせるかを考えどんな反応をするのかを予測し、題材の終わりの児童の姿を教師側がしっかりと踏まえることが大切であると実感した。

(3) 学習の支えとなる〔共通事項〕を明確にした実践例 (第5学年)

① 題材名 「問いと答えの仕組みの面白さを感じて聴いたり演奏したりしよう」(5時間扱い)

② 題材の目標 問いと答えの仕組みの面白さを感じ取って演奏したり、楽曲を味わって聴いたりできるようにする。

教材名 「キリマンジャロ」(ウォルフ シュタイン・ウォルフガング ヤス作曲/橋本 祥路編曲)
「中国の踊り」(バレエ音楽 くるみ割り人形より)(チャイコフスキー作曲)

③ 学習指導要領との関連

【A表現:(2)器楽】 イ 曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって表現すること

【B鑑賞:(1)】 イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。

〔共通事項〕

ア (イ) 「問いと答え」

			〔共通事項〕の具体的な内容	学習活動
ア	(イ)	問いと答え	<ul style="list-style-type: none"> ・「問いと答え」の仕組みの面白さ ・楽曲「中国の踊り」のフルート、ピッコロ(問い)とバイオリン(答え) ・教材「キリマンジャロ」の「ア」のリコーダー(問い)と鍵盤ハーモニカ(答え) 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲「中国の踊り」を聴き、フルート、ピッコロとバイオリンの演奏による問いと答え(対照)の仕組みを感じ取る。 ・教材「キリマンジャロ」を聴き、リコーダーと鍵盤ハーモニカの範奏による問いと答え(対照)の仕組みを感じ取る。
			<ul style="list-style-type: none"> ・教材「キリマンジャロ」の「問いと答え」の仕組みを生かし、演奏する面白さや楽しさ 	<ul style="list-style-type: none"> ・タンギングや息の強さを工夫する。 ・生き生きと演奏するために速さを工夫する。
			<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲「中国の踊り」と「問いと答え」の仕組みが関わり合う面白さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲「中国の踊り」を聴いて旋律の変化に伴い、強弱や速さ、伴奏が少しずつ変化し、楽曲全体が豊かになることを味わって聴く。

④ 題材の評価規準

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
<p>「問いと答え」の仕組みに関心を持ち、それを生かして主体的に器楽演奏に取り組もうとする。</p> <p>【関一①②器楽】</p>	<p>「問いと答え」になっている主旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、どのように表現するか思いや意図をもっている。</p> <p>【創一①②器楽】</p>	<p>「問いと答え」の仕組みの面白さを感じ取って演奏している。</p> <p>【技一①器楽】</p>	<p>「問いと答え」の仕組みの音楽を聴き、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、楽曲の構造を理解して聴いている。</p> <p>【鑑一①②】</p>

⑤ 指導観

(1) 題材観

本題材では、音楽を形づくっている要素「問いと答え」に着目し、「問いと答え」の面白さを感じ取りやすい楽曲や範奏を聴いて問いと答えの仕組みの音楽を聴き取る。器楽の学習では問いと答えの主旋律をペアやグループ、学級全体で演奏し、面白さ感じ取り、表現を工夫する。

題材の終わりに再び導入で聴いた鑑賞曲を聴き、器楽合奏をしたことにより導入では気付かなかった楽曲の構造や曲想を一層味わって聴くようにする。

(2) 教材観

ア 表現教材

「キリマンジャロ」 (ウォルフ シュタイン・ウォルフガング ヤス作曲／橋本 祥路編曲)

主旋律は「問いと答え」の仕組みを生かした形になっており、児童が旋律の受け渡しを意識して演奏するようになっている。曲の前半、**ア**の部分はリコーダーと鍵盤ハーモニカが一小節ごと呼応するかのような掛け合い(対照)になっており、それが三回行われた後、リコーダーと鍵盤ハーモニカで二小節一緒に演奏するようになっている。全体にスタッカートで弾んだ感じである。**イ**の部分は二小節ごとの問いと答えになっており**ア**と違って全体にレガートで演奏する。

以上のことから、「問いと答え」に気付き、その面白さを感じ取らせ、自分たちの合奏をこらしたいという思いや願いをもたせ、曲想を工夫させること、表現をする中でお互いの音を良く聴き合うこと、相手を意識して音を出すこと等を身に付けさせたい。

イ 鑑賞教材

「中国の踊り」(バレエ音楽 くるみ割り人形より) (チャイコフスキー作曲)

(CD・・・アンドレ・プレヴィン指揮／ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団)

チャイコフスキー晩年の作品である。「中国の踊り」は第2幕で演奏され、お茶の精、男女二人がコミカルな踊りを繰り広げる場面で演奏される。

「問いと答え」がはっきりしている曲で、「問い」の部分はフルートやピッコロによる音の旋律で演奏されており、「答え」の部分はバイオリンによるピチカート奏法で演奏されている。

約一分間の短い曲であるが、旋律が対話をしているように聴くことができる。

「問いと答え」は五回ずつ繰り返されており最後に問いであるフルート、ピッコロが答えであるバイオリンと一緒に混ざり合っていて聴こえる。また、「問いと答え」それぞれが回数を増すごとに、旋律や伴奏、速さが変化していくことにも気付かせたい。

⑥ 児童の思考の流れに沿った指導と評価の位置付け

		評価の位置付け			
児童の思考に沿った知覚・感受の深まり		音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
	<p>○知覚・感受を深める学習過程 ◇児童の思考の流れ</p>				
1	<p>○問いと答えの仕組みに関心をもち、その特徴や面白さを感じ取る。(鑑賞) ◇ [共通事項] を聴き取る ◇ [共通事項] を感じ取る 「フルートの問いとバイオリンの答えが交互に演奏しているのが面白い。」</p>	<p>問いと答えの仕組みの音楽を聴き取る学習に進んで取り組んでいる。 【関一①鑑賞】</p>			<p>問いと答えの仕組みの音楽を聴き、その特徴や面白さを感じ取って聴いている。【鑑一①】(行動観察・発言内容)</p>
2	<p>○問いと答えの働きが生み出すよさや面白さを感じ取る。(器楽) ◇思いや意図をもつ 「リコーダーと鍵盤ハーモニカで問いと答えの演奏してみたい。音楽でお話してみたいにしたい。」</p>		<p>リコーダーと鍵盤ハーモニカの対照による問いと答えの働きが生み出すよさや面白さを感じ取って、どのように表現を工夫するか思いや意図をもっている。【創一①器楽(行動観察・発言内容・ワークシート)】</p>		
3	<p>○問いと答えの仕組みの面白さを感じ取りながら、教材「キリマンジャロ」の表現を工夫する。(器楽) ◇技能の必要性を感じる、創意・工夫をする、技能を修得する 「レガートで演奏するためにはタンギングや息の強さを工夫してみよう。」 「何回も試してできるだけようにしよう。」</p>		<p>問いと答えの特徴を感じ取り、相手のパートに呼応をして演奏するよさや面白さを感じ取ってどのよう表現を工夫するか思いや意図をもっている。【創一②器楽】(演奏聴取・発言内容)</p>		
4				<p>問いと答えの仕組みを生かして演奏するために工夫して演奏している。【技一①器楽】(演奏聴取)</p>	
5	<p>○楽曲「中国の踊り」を聴いて、問いと答えの仕組みの音楽が少しずつ変化していくことを感じ取り、味わう。(鑑賞) ◇思いや意図をもって音楽を鑑賞する ◇よさや面白さを味わう 「問いと答えの音楽が、だんだん速さが速くなったり音が大きくなったりして華やかになったね。」</p>	<p>問いと答えの仕組みの音楽を、曲想を生かして生き生きと演奏することに意欲的に取り組んでいる。 【関一②器楽】(演奏聴取・発言)</p>			<p>問いと答えの仕組みの旋律が形や強弱、速さが少しずつ変わっていることに気づき、味わって聴いている。【鑑一②】(行動観察・ワークシート)</p>

⑦ 題材の指導計画と評価計画（全5時間扱い）

次	時	評価の位置づけ		
		音楽表現の 創意工夫	音楽表現の 技能	鑑賞の能力
		音楽への 関心・意欲・ 態度	音楽表現の 創意工夫	音楽表現の 技能
		◆ねらい ○学習内容 ・学習活動		
		◆問いと答えの仕組みを聴き取り、面白さを感じ取る。		
		○旋律の特徴に気を付けて聴く。 ・「中国の踊り」を聴き、旋律を聴き取る。 今からある音楽を聴きます。音楽の中でお話ししている部分は見付けられますか。 ・問いと答えそれぞれが交互になって現れることに気が付く。 ・問いの部分がピッコロとフルート、答えの部分がバイオリンによる演奏であることを確認する。 ・ペアで問いと答えの部分に分かれて、楽器の演奏をしている動作をする。 ・ペアで問いと答えの部分に分かれて、ペンの受け渡しをする。 ペンを受け渡した時に、どんな気持ちになりましたか。 C:「どうぞありがとう、という気持ち。」 ・「中国の踊り」を聴いて気付いたことをワークシートに記入する。		
第一次	1	<p>問いと答えの仕組みの仕組みを聴き取り、面白さを感じ取る。</p> <p>○「キリマンジャロ」の主旋律の範奏を聴き、問いと答えの仕組みを感じ取って演奏する。 今日はみんながこれから取り組む合奏の曲を聴きます。この間聴いた「中国の踊り」と似ているところを見付けてください。</p> <p>・問いと答えの形になっていることに気が付く。</p> <p>鍵盤ハーモニカとリコーダーはどなんふうに聴こえましたか。</p> <p>C:「交互になっています。」「お話ししているみたいです。」「面白い。」</p>	<p>問いと答えの仕組みの仕組みを聴き取り、面白さを感じ取る。</p> <p>【鑑一①】（行動観察・発言内容）</p>	
第二次	2	<p>主旋律の拡大譜を見ながら再度範奏を聴き、問いと答えの仕組みを確認する。</p> <p>・合奏用の範奏を聴く。 ・アの部分全員で階名で歌う。 ・アの部分リコーダーのパートと鍵盤ハーモニカのパートに分かれて歌う。 ・自分の担当する楽器をそれぞれ練習する。 ・グループごとにアの部分の8小節を問いと答えで演奏する。</p> <p>今日は最初のところをやりましたが、これからキリマンジャロをどなんふうに演奏したいですか。</p>	<p>リコーダーと鍵盤ハーモニカの対照による問いと答えの働きが生み出すよさや面白さを感じ取っている。</p> <p>【創一①器楽】（行動観察・発言・ワークシート）</p>	<p>(児童の発言から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お話ししているみたいに演奏したいです。 ・リコーダーと鍵盤が一緒になるところは気持ちよく演奏したいです。 ・拍の流れによって演奏したいです。

◆問いと答えの仕組みを生かして演奏の仕方を工夫する	<p>○問いと答えの仕組みを生かして演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主旋律の範奏を聴く。 ・アの前半の部分を練習する。 <p>【音楽でお話しているようにするには何を工夫したらいいと思いますか。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の音を聴いたり、心の中で歌ったりすることをおさえる。 ・スタックカートで演奏するためにタンギングの仕方を工夫する。 ・アの後半の部分をそれぞれ練習する。 ・アの後半の部分をグループで問いと答えの仕組みを感じながら演奏する。 ・音楽でお話するように演奏したか振り返る。 	<p>問いと答えの仕組みを感じ取り、相手のパートに呼応をして演奏するよさや面白さを感じ取ってどのように表現を工夫するか思いや意図をもっている。【創一②器楽】(演奏聴取 発言内容)</p>	<p>問いと答えの仕組みを生かして演奏するための息の強さやタンギングを工夫している。</p> <p>【技一①器楽】(演奏聴取・発言内容)</p>	<p>問いと答えの仕組みの強弱、速さが少しずつ変化していることに気づき、味わって聴いている。【鑑一①】(観察(表情・ワークシート))</p>
3	<p>○問いと答えの仕組みを生かして演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アの前半の部分を練習する。 <p>【音楽でお話しているようにするには何を工夫したらいいと思いますか。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の音を聴いたり、心の中で歌ったりすることをおさえる。 ・スタックカートで演奏するためにタンギングの仕方を工夫する。 ・アの後半の部分をそれぞれ練習する。 ・アの後半の部分をグループで問いと答えの仕組みを感じながら演奏する。 ・音楽でお話するように演奏したか振り返る。 	<p>問いと答えの仕組みを感じ取り、相手のパートに呼応をして演奏するよさや面白さを感じ取ってどのように表現を工夫するか思いや意図をもっている。【創一②器楽】(演奏聴取 発言内容)</p>	<p>問いと答えの仕組みを生かして演奏するための息の強さやタンギングを工夫している。</p> <p>【技一①器楽】(演奏聴取・発言内容)</p>	<p>問いと答えの仕組みの強弱、速さが少しずつ変化していることに気づき、味わって聴いている。【鑑一①】(観察(表情・ワークシート))</p>
4	<p>○問いと答えの仕組みを生かして演奏するために息の強さやタンギングを工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アの部分を全員で階名を歌う。 ・自分の担当する楽器をそれぞれ練習する。 ・グループで問いと答えの形を意識して演奏する。 ・アはスタックカートで演奏し、イはレガートで演奏することを確認する。 <p>【レガートで演奏するにはどうしたらいいですか。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・息の強さやタンギングの仕方を工夫する。 ・班ごとにアの部分を発表する。 ・伴奏を聴きながら拍の流れにのってゆっくと演奏する。 ・自分たちの演奏を録音して聴く。 ・感想や気付いたことを発表する。 	<p>問いと答えの仕組みを感じ取り、相手のパートに呼応をして演奏するよさや面白さを感じ取ってどのように表現を工夫するか思いや意図をもっている。【創一②器楽】(演奏聴取 発言内容)</p>	<p>問いと答えの仕組みを生かして演奏するための息の強さやタンギングを工夫している。</p> <p>【技一①器楽】(演奏聴取・発言内容)</p>	<p>問いと答えの仕組みの強弱、速さが少しずつ変化していることに気づき、味わって聴いている。【鑑一①】(観察(表情・ワークシート))</p>
◆	<p>○問いと答えの仕組みを生かして演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アの前半の部分を練習する。 <p>【音楽でお話しているようにするには何を工夫したらいいと思いますか。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の音を聴いたり、心の中で歌ったりすることをおさえる。 ・スタックカートで演奏するためにタンギングの仕方を工夫する。 ・アの後半の部分をそれぞれ練習する。 ・アの後半の部分をグループで問いと答えの仕組みを感じながら演奏する。 ・音楽でお話するように演奏したか振り返る。 	<p>問いと答えの仕組みを感じ取り、相手のパートに呼応をして演奏するよさや面白さを感じ取ってどのように表現を工夫するか思いや意図をもっている。【創一②器楽】(演奏聴取 発言内容)</p>	<p>問いと答えの仕組みを生かして演奏するための息の強さやタンギングを工夫している。</p> <p>【技一①器楽】(演奏聴取・発言内容)</p>	<p>問いと答えの仕組みの強弱、速さが少しずつ変化していることに気づき、味わって聴いている。【鑑一①】(観察(表情・ワークシート))</p>

第三 次

◆ 「中国の踊り」を再び聴き、味わう

○問いと答えの仕組みに気を付け、ピアノの伴奏に合わせて演奏する。

- ・前時に似たことを確認し、ピアノの伴奏に合わせて少しずつ早くしながらアとイを何回も演奏する。
- ・録音し、前時と比べてどうだったか発表する。

○ 「中国の踊り」を再び聴き、問いと答えの仕組みの面白さを味わう。

【前に聴いた「中国の踊り」をもう一度聴きます。学習した音楽の仕組みに気を付けて聴きましょう。】

- ・この曲の紹介文を書く。

児童の変容と今後の課題

- ・重点的に指導する〔共通事項〕を絞ったことで、問いと答えの仕組みを感じて演奏するようになった。
- ・高学年になると学習する要素が多く含まれるので、重点的に指導する〔共通事項〕に対しての教材の選択を吟味する必要がある。

VI 研究の成果と課題

1 研究の成果

「知覚・感受が深まるための指導と評価の工夫」の研究主題のもとに、児童の思考の流れに沿った学習過程や評価方法、発問の工夫について実践を通して研究を進めた。

明らかになったことは次のとおりである。

(1) 題材における知覚・感受する〔共通事項〕の具体化

〔共通事項〕の内容を具体的にし、児童の思考の流れに沿った学習活動において、児童が何を知覚し、感受するかを指導計画の段階で明らかにした。そのため、児童一人一人の知覚・感受の深まりを教師も児童も明確に意識することが容易になった。

表現と鑑賞の関連付けを考えると、〔共通事項〕の具体化が重要であり、関連付けがより効果的となった。

(2) 児童の思考の流れに沿った指導と評価計画の作成

児童が知覚・感受したことを基にした学習展開を大切にした。〔共通事項〕を聴き取る、その働きによるよさや面白さを感じ取る、そのよさに憧れをもち自分もそのように表現するためにどのように音楽表現を工夫するかという思いや意図をもつ、思いや意図を実現するために技能の必要性を感じる、創意・工夫をしたり、技能を習得したりして、思いや意図をもった音楽表現をするなど児童の思考の流れを重視した指導と評価の計画を作成した。

実践を通して、児童の思考の流れを重視し児童の目線で計画することで、教師主導ではなく、「～だから、・・・したい。」という児童が自らの思いをもって学習が進み、次の題材や学習活動に生かされていくことを教師自身が実感した。

(3) 知覚・感受の深まりを促す発問の工夫

「児童の思考の流れに沿った指導と評価計画」に沿って、知覚を促す発問、感受を促す発問、思いや意図をもつための発問、思考の深まりを感じさせる発問、など児童の思考過程を意識し、発問を工夫するようになった。また、児童の思考をあらかじめ予想することによって、その場で児童の感じ取り方の違いを分析し、知覚・感受の追発問をするようにした。その結果、感受や思考の深まりが見られるようになった。

さらに、指導場面や段階内容に合った発問を意図的に行い、児童の思考の流れを教師自身が大切にできるようになった。

(4) 指導に生かす評価方法の工夫

「児童の思考の流れに沿った指導と評価計画」に沿って、何のために、何を、いつ、どのように評価するかを常に明確にした。また、評価規準も児童の具体的な姿で捉えるようにした。ワークシートや振り返りカードなども、何のために、何を、いつ、どのようにという視点を大切に作成し、授業に生かすようにした。評価のための評価ではなく、児童一人一人の感じ取り方や考え方を把握し、ねらいを実現させるためのより有効な評価方法を考えることが大切であることが分かった。

2 今後の課題

児童の知覚・感受を深め、音楽科においても確かな学力を身に付けるために研究を進めてきた。今後の課題は、次のとおりである。

- ・児童の視点に立って、児童の思考の流れに沿った学習を展開し、より効果的な評価方法を追及する。
- ・児童の思考の流れを促す発問を分析し、効果的な発問を明らかにするとともに、多様な児童の発言に柔軟に対応できる技能を磨く。
- ・知覚・感受をより深めていくために、一つの題材だけではなく、年間指導計画にも着目する。研究の成果を生かし、課題に向き合いながら、今後も更に研究を続けていきたい。

平成24年度 教育研究員名簿

小学校・音楽

地区	学校名	職名	氏名
新宿区	花園小学校	主任教諭	草深 陽子
文京区	窪町小学校	主任教諭	浅野 知子
葛飾区	東綾瀬小学校	主任教諭	高久 道子
八王子市	浅川小学校	主任教諭	◎杉本 美由紀
立川市	西砂小学校	主任教諭	○西牧 佳子

◎世話人 ○副世話人

[担当] 東京都教育庁指導部指導企画課

統括指導主事 宮崎 直人

東京都教職員研修センター研修部教育経営課

指導主事 金子 陽子

平成24年度
教育研究員研究報告書

小学校・音楽

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成24年度第243号〕

平成25年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6882
印刷会社 株式会社 イマイシ